

Title	小学校社会科における価値判断の授業開発-包摂主義を基軸とした価値類型の有効性-
Author(s)	秋田, 真
Citation	
Issue Date	2016-09-30
URL	http://hdl.handle.net/10129/5972
Rights	
Text version	author



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

論文審査及び最終試験結果報告書

課程博士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座		
学籍番号	11GR101	氏名	秋田 真
審査委員	主査	北原 啓司	
	副査	大坪 正一	
	副査	土井 良浩	
(論文題目) 小学校社会科における価値判断の授業開発 —包摂主義を基軸とした価値類型の有効性—			
(論文審査の要旨) 本研究の目的は、小学校社会科における価値判断の授業を包摂主義の観点から新たに授業開発することであり、そのために、橋本努氏の「包摂主義」の観点を基軸とした価値の類型化を行い、それに基づく形で、社会科の授業構成を行い、実践を試みている。さらに、そこで児童の認識をもとに質的分析を実施し、授業開発と実践における価値の特質を明らかにしようとしている。 ここでは、学習者の思考に沿った価値判断学習の類型化や、時代の変化に応じた価値類型の必要性が今後の課題として提示され、それを解消する包摂主義の観点を基軸とした4類型が提案されている。これを元に以降の授業開発・実践と分析が行われている。 まず、包摂主義の組織管理と組織協同を価値として設定した授業開発を行い、具体的には、在の配分（組織管理）かケイパビリティの拡充（組織協同）かを問う「青年海外協力隊の支援のあり方」を扱い、その分析では、価値観形成を志向した授業の有効性を明らかにしている。 一方で、非包摂主義の個別尊厳と個別責任を価値として設定した授業開発を行い、具体的には、我が国の選挙における女性議員の実質的平等（個別尊厳）か形式的平等（個別責任）かを問う「議員クォーター制実現の是非」を扱い、同様に価値観形成を志向した授業の有効性を明らかにしている。また、価値観形成のためには、価値を教師側から一方的に押しつけない、アクティブ・ラーニングの視点が有効であることも明らかにしている。さらに、包摂主義と非包摂主義のそれぞれの価値類型ごとに授業実践を行い、その有効性も明確にしている。さらに、教師が適切に発問および指示ができるようになることで、児童は立場や手立てを具体的に考え表現することができることも明らかにした。 最後に、本論文の成果として、価値判断学習の有効性を明らかにし、学習指導方法の深化についても明示しており、一方で、課題として、価値類型の限定性が提起されており、さらなる実践の積み重ねによる研究の精緻化の必要性も明記されている。 公開審査では、橋本努の包摂主義に関する議論の客観的評価に関して、また、小学校に限定した論文タイトルの意味（中学校や高校における価値判断学習の有効性）について質問がなされ、今後の授業実践を通じての研究の継続への期待を込めた意見も出された。			
(最終試験結果の要旨) 本論文の中心には、橋本努による包摂主義に関する理論を、小学校における社会科授業に適用することの効果と意義を提起したものであり、事例数としては限界があるものの、価値観の育成を目的とした価値判断の授業の可能性を十分提示していると評価できる。価値と価値観との用語の使用についての若干の誤謬があるものの、本論文の意義を損なうものではなく、本研究科として学位論文の合格基準に達しているものと、審査員全員で判断するものである。			

